

# あびの文化

発行人  
藤井 吉彌  
我孫子市寿  
2-21-23  
04(7185)  
1996

あけましておめでとうございます

会長 藤井 吉彌

昨年末の忙しい総選挙も、結果はこれからの日本を変えろこととはあまりなさそう、安堵感と閉塞感が交錯する状況となっております。

そんな中、我が会は昨年にも着実な活動を続けて参りました。

文化講演会は地元へ永くお住まいで地理・歴史がご専門の相原正義氏をお迎えし、「利根川、手賀沼に挟まれた我孫子の人々の営みを考える」をテーマにお話し頂きました。寛永七年(1629)に始まる利根川東遷の壮大な計画、その経過、東京湾に流れていた利根川を流路変更し太平洋に流すという困難な事業を成し遂げた先人の偉業が良く理解できました。また先生の広い学識は昭和20年代から東京の台所を支えた行商のおばさん、さらには手賀沼の鰻にまでおよび、聴衆の皆さんも大満足の様子でした。

第一小学校では当会の作成した杉山英先生の紙芝居に着目され、昨年の創立記念日に全校生徒、父兄、卒業生等600名を集め紙芝居の上演会を催されました。生徒のみなさんは校内掲示板でちらつと見た杉山先生がこんなに偉い先生だとは知らなかったと感心したようでした。

放談くらぶでは「インドを旅して」、「相馬霊場八十八ヶ所物語」等を催しましたが、副会長の伊藤さんは、「ドイツ科学史巡礼の旅」と題され、学友と共に十年來ドイツ各地を見聞し、ドイツの化学研究が、リービッチと言う人物の登場で世界一流になっていった経過をお話されました。日本が湯川博士のノーベル賞受賞で科学研究の分野で一流の仲間入りをする前夜を伺うようでした。

史跡文学散歩は「我孫子にゆかりの文士を訪ねる」をテーマに布川、千駄木、新宿区中井の林芙美子記念

館等を訪ねました。

プロジェクト活動もそれぞれのプロジェクトが特色を出して活動を続けました。「百人一首を楽しみ会」では歌を理解するだけでなく歌を多面的に鑑賞することとで新しい展開を楽しんでいるようです。「布佐の歴史文化研究」では主宰する戸田さんが会員と江戸時代戸田氏の発祥の地である渥美半島、大垣を訪ね、地元で系図上姻戚関係がありそうな方に出会ったようです。「建築探訪」の会では5月に有明の超高層マンションの建築現場を訪ね9月には筑波山麓の田舎町真壁を訪ねました。この小さな町に100件以上の「登録有形文化財」があることに驚きました。「巨木・名木を訪ねる会」は毎月10人位で我孫子市内の探索に出掛け、これまで140本の巨木(田周3m以上)を特定しました。これから整理に入り、順次記録を発行予定です。当会も高齢化が進みますが、これからも皆様と共に澁刺とした精神であびの文化を堪能する活動を続けてゆく所存です。

我孫子の文化を皆で楽しみましょう。

## プロジェクト報告会&懇親会を実施

十月十二日(日)我孫子市南近隣センター(けやきプラザ9階ホール)でプロジェクト報告会が開催され、27名が参加した。当日は6プロジェクトの各担当から報告があった。懇親会では初めて参加した会員からの自己紹介の後、近況などを述べ合い、普段顔を合わせない会員同士の親睦を深めた。

## 新年会のお知らせ

初めの方も是非参加ください!

日時 1月11日(日) 17時

場所 はな膳 我孫子北口駅前店

電話 七一九九〇〇一〇

会費 2500円

問い合わせ&申し込み

越岡(七二八四二〇四七)まで

## 第116回 史跡文学散歩 (報告)

「林芙美子邸と上高田の寺町を訪ねる」

牧田 宏恭

手賀沼周辺の紅葉の色合いも見事な本年の晩秋、とは言っても明日からは師走の十二月を迎える本日、十一月三〇日(日)、恒例の史跡文学散歩の当日を迎えた。

昨日の雨模様とは一変、快晴の朝を迎えた。絶好の散歩日和である。集合場所の我孫子駅に定刻9時に参加者18名(後に合流の女性1名も含め)が集合。内訳は(会員・非会員各9名)である。

本日も、当会の史跡文学散歩のリーダーであり、副会長の越岡禮子氏の引率、そして詳しい案内をいたいただきながらのスタートとなった。

一同、高田馬場經由西武新宿線の中井駅に10時15分到着、早速中井駅付近の「八つの坂」についての越岡氏の説明を皮切りに、最初の訪問先である「林芙美子(本名：フミ子?)記念館」に向かった。「四の坂」を上った小高い処にたたずむ平屋建ての立派な屋敷が記念館であった。

折しも、庭園のみみじをはじめ見事に色付いた木々が、前日の雨で殊更、鮮やかな色合いを競うかのごとく迎えてくれた。記念館の女性スタッフの詳しい説明を受け、約一時間余り滞在、林芙美子の生涯の一端を知ることが出来たと思う。林芙美子は苦境の



時期を必死に、作家の道一筋に乗り越え、作品の評判が極めて良く、発行部数もうなぎ昇りに増加。その結果、生活も安定し、この地に自分の強い思い入れを込め、使い勝手を重視した立派な家を建てた。亡くなるまでの十年間もこの家で作品を書き続け、極めて多忙なる日々を送る中、47歳という短かった人生を急病で締めくくった。

林芙美子は広く知られているように、波乱ともいえる変動の大きな人生は、「放浪記(自伝に基づく)」に代表される数々の名作を生み出した女流作家であった。また、谷崎順一郎初め友人も多かったとある。記念館となつているこの家は、建坪規制を考慮にいれ、ご主人のアトリエや自分の書斎・客人を迎える部屋など、名義を使い分け、間取りも随所に工夫が施されている。

次に訪れたのが、「八の坂」を登りつめたところに位置する「中井御霊神社」、時刻はジャスト12時着。創建時期は不詳であるが、祭神は仁徳応神天皇など四柱?とのことらしい。

江戸時代この地域の落合村の鎮守とされていたこの神社境内には「カヤの木」、「クスノ木」「クロマツ」など巨木に近い大きな新宿区の保存木もある。私は日頃、この会の「巨木探訪プロジェクト」にも参加しており、木々は特に眼に入るし、興味を持つているので自然に見つめてしまう。境内には「かりんの木」もあり黄色のみごとな実をつけていた。

この社には、貴重な文化財があるとのこと(拝観は出来なかつたが)。「分木」(正月に催される備射祭に使われる的を描くためのコンパス)、「絵馬」、「雨乞いのむしろ旗」が納められているとのことである。境内で全員持参した昼食をとり、12時30分に出発。

次に向かったのは浄土真宗・大谷派「願正寺」。此処には、1860年(万延元年)外国奉行に抜擢され、日米修好通商条約批准書交換の正使としてアメリカを訪問、遣米大使の大任を果たした「新見豊前守正興」の墓があり、後にモーリス・アメリカ大使もこの墓に訪れたとのこと。

余談だが、幕末頃に欧米の日本への接触(ペリー)の来

航等に始まる開国要求への軍事上の不安感対策として東京湾に海岸防備のために設けられた「お台場」にはその基礎を築くために、我孫子地区の「根戸の松」が多数使用されたとのことである。

なおこの「願正寺」を初め、この地域に建立されている寺院の殆どは、お墓とともに、または墓のみが、明治末期(明治四十年代頃)以降、当時の東京市都市計画などにより、四谷・牛込・中央区等々からこの地に、引越して寺町を形成したとの越岡リーダーの説明があった。

続いて、13時10分に次の訪問先の「宝泉寺」に到着。曹洞宗の寺である。この境内では「板倉内膳正重昌」の墓を訪ねた。墓石は高さが3メートルもある五輪塔で、重昌は、3代将軍家光公の時代に起こった一揆、すなわち「島原の乱」にて、幕府の命により一揆勢の鎮圧に当たるが、結局、責務を果たさなまま戦死した。墓石にある命日は「寛永十五年元旦」と刻まれている。

次に、曹洞宗「万昌院功運寺」に13時20分に到着。この寺は「今川義元」の三男「長得」が没落し僧侶となり、1574年(天正二年)開基された「万昌院」と1593年(慶長三年)、徳川3代に仕えた永井信濃守尚政により創建された「功運寺」が、ともに大正初期、この地に移った後、近年合併したとのこと。この境内にある墓地には、歴史上の有名な人物が眠っている。代表的な人物は「吉良上野介義典」、そして吉良家代々の墓石もあった。「吉良上野介義典」が赤穂浪士の討ち入りにより死去後、その首が「万昌院」に届けられ、その首と胴体をつなぐ手術をした幕府お抱えの南蛮外科医の「栗崎道有」の墓もある。また、浮世絵師の「歌川豊国」の墓、そして旗本の不平分子・旗本奴の水野十郎左衛門の墓もあり、水野の幡随院長兵衛との争い等も語り継がれている。

そのほか、剣士で直心陰流開祖「長沼国郷」、今日最初に訪問した「林芙美子」の墓もある。なお、境内に「ぶし」と「トチノ木」が仲良く根を巻きつけて、並んで立っている珍木があった。

続いて、「臨濟宗「龍興寺」をたずねた。時刻も14時

15分を廻ったこの「龍興寺」には、徳川5代將軍「綱吉」の寵愛を受け、幕府御用人の身分から極めて異例なる大出世を遂げ大老格まで登りつめ、幕政を仕切ったといわれる「柳沢吉保」の側室「染子」の唐破風型墓がある。「染子」は後に2代目藩主で名君と呼ばれる「吉里」を産んだ。また「染子」の兄弟のうち四女は、信濃の「善光寺」の上人になった人だそうだ。

次に向かったのは、浄土真宗・大谷派の「高德寺」である。ここには、著名なる儒学者「新井白石」の墓がある。白石(1657年(明暦三年)〜1725年(享保十年))は、30歳ころ「木下順庵」の門下となり、「順庵」の推挙により「徳川綱豊」後の家宣の学問相手となり、1701年(元禄十四年)には、過去80年に遡り大名337家の家系図「藩翰譜」はんかんふをまとめた。「綱豊」が第6代將軍「家宣」となり「白石」などを重用し「正徳の治」といわれる善政を行ったことは知られている。

本日の「歴史文学散歩」も終盤に近付き、次の訪問先である、浄土真宗・大谷派の「源通寺」に14時25分過ぎに到着。ここには、歌舞伎狂言作者河竹黙阿弥(1816年(文化三年)〜1893年(明治二十六年))の墓所がある。「黙阿弥」は幕末から明治に世話物や白浪物の名作を発表、代表作「白浪五人男」をはじめ生涯に360編の作品を残した。

続いて並びの曹洞宗・青源時門前を通過し、最終訪問先の近くの浄土真宗・本願寺派「正見寺」に14時40分に到着した。江戸3美人の一人と言われている笠森お仙(1752年(宝暦二十五年)〜1827年(大正十五年))の墓がある。「お仙」は谷中の「笠森稻荷」前の水茶屋の娘として生まれ、看板娘として、その美しさから、「大田蜀山人」の「二話一言」に記され、また、浮世絵師の「鈴木春信」が「お仙」をモデルに絵を描くなど、もてはやされた。「お仙」は、徳川家に仕え、8代將軍「徳川吉宗」に随伴、江戸城お庭番「お庭者支配百俵七人扶持」という役職に就いた倉地政之助の妻となった人物とのことである。墓石に「政之助」と「お仙」が並んで刻まれているのが印象的であった。

さて、本日の「我孫子の文化を守る会」の史跡文学

散歩の行事は、ここで、越岡リーダーの挨拶をもちまして終了、現地解散した。時刻は15時10分前であった。

途中で怪しげな天気になり、心配をしたものの無事終了。訪問先ごと、詳しい説明をいただいた越岡氏に深く感謝したい。また、この報告文作成に当たり、本日記布されたレジュメに依るところも大きかった。改めて御礼したい。(写真は「林芙美子記念館」の庭園)

### プロジェクト報告

関東建築探訪(第24回)

## 「有形文化財住宅の宝庫真壁」

藤井 吉彌

秋の陽を一杯に浴び、9月26日筑波山の麓、桜川市真壁を7人の仲間で訪ねた。桜川市は公共の電車、バスが無い珍しい市である。田園風景の続く市内から真壁町へ入ると、木造の町家が軒を連ねる瀟洒な地域が現れる。この1kmに満たない地域に100件余の有形文化財住宅があり、これは日本一の密度である。有形文化財住宅とは文化庁が将来残すべきと判断し、台帳に登録した住宅を指し、「登録有形文化財」と称される。

真壁は古くから有力藩主が治めていたが、江戸時代に入り、真壁城とその城下町が整備され、当時の絵図にある道路が現在とほとんど変わらないことが確認されている。1600年代に入ると県北を支配下に置いていた佐竹氏が秋田に転封となり、浅野長政が藩主となった。以後の藩主も町の経済的發展に尽くし、県北では有数の木綿の集散地となり、製糸業も興った。又筑波山麓の石材も町の振興に寄与した。

江戸時代は笠間藩の配下であり陣屋がおかれていたが、町全体が綿花の商いで潤い、豊かになっていった。その面影を町の随所に見ることが出来た。3軒の住宅を見てみる。

① 潮田家 江戸末期に呉服、荒物、雑貨商を幅広く営み、関東の三越と呼ばれた。道路に面し

た家の前に柱を設け、広い庇の下を「見世」呼ぶ「商いの場」とする構造の典型例。真壁最大の見世蔵造り。(写真右)

② 猪瀬家 同家は

佐竹氏の家臣で明治から昭和にかけてに2代にわたり町長等を務めた名家の住宅。(写真中)

正門である薬医門は他に類を見ない精巧な彫刻が施され、町並みを代表する景観である。

③ 中村家 典型的な見世蔵。当家は江戸末期に木綿商から米問屋に変わったが、その時代の建築。(写真左)

真壁の登録文化財住宅は今でも当地の豊かさを感じられる立派な文化財であることが現物を見て分った。

真壁の町並みは平成22年に文化庁より重要伝統的建築群保存地区に選定された。その翌年、東日本大震災により多くの有形文化財住宅が被害を受け、この2年近くの間、一般公開できな



い状態であったが、保存地区選定で文化庁からの手厚い補助金が出たため、被害の割には比較的早く復旧できたとの話であった。我々が見学した時もまた復旧工事中の建物が散見された。また復旧工事は昔の工法でやるので、職人の確保が難しいと聞いた。

我孫子から比較的近い所に素晴らしい町並みがあるので、興味のある方はひな祭りの時には是非お出かけ下さい。

### 関東建築探訪(第25回)

## 「日本の中枢―国会議事堂・最高裁判所・国立劇場を訪ねる」

藤井 吉彌

このところ衆議院の選挙に絡み、国会が何かと話題になるが、11月17日に国会も含め日本の中枢を司る建物を、秋真っ只中の陽を浴びながら巡った。

始めに憲政記念館を訪ね明治時代に活躍した政治家の特別展を拝見。大隈重信の義足、福沢諭吉の掛け軸、憲法発布の錦絵等様々な実物資料があり、大変興味をそそられた。

国会議事堂は初めて入ったが、計画から20年後に竣工した我が国の一大事業だけに、随所に感心させられた。世界各所から取り寄せた大理石の素晴らしさは世界に誇れるものだ。又天皇の玉座始め各所にある木工事の精度の高さも同様だ。構造をコンクリート杭躯体は鉄骨・鉄筋コンクリートとしたことも地震国日本の最重要建造物を造るにあたり、当時の最高の技術力を発揮したものと思われる。

次に隣の国会図書館に行く。前川国男がコンペで当選し設計した建物。打ち放しコンクリート、外壁打ち込みタイル、壁はつり仕上げ等、随所に前川流の仕上げが施されていた。

引き続き最高裁判所へ向かう。国の憲法の番人に相応しい、巨大な大理石による外装が建物の役割を象徴している。正面玄関から入ると天井の高い長いエントランスがあり、左右に由緒ある彫刻が据えられていて

大法廷に入る心構えを質す構成を感じ。大法廷は大広間で、天井はドーム状になつており中心部から太陽光が入る設計となつている。全体に国権の番人に相応しい造形を感じた。



最後は国立劇場。皇居前の内濠通りに面し、堂々の佇まいで建つている。それは奈良東大寺正倉院の造形を現代の劇場に全面的に取り入れたからである。歌舞伎。文楽等を上演する劇場として存在感を示していた。最高裁、国立劇場がコンペで建設会社の設計者が選ばれたことは日本の造形の新潮流を示している。

**次回 建築探訪(第26回)案内**  
**住宅のプレファブ工場探訪**

日時 1月18日(日) 我孫子駅(7時50分)集合  
我孫子→柏→おたかの森→積水ハウスショールーム  
→セキスイ工場→見学終了→おたかの森(17時30分)

場所 積水ハウス古河「住まいの夢工場」  
内容 プレファブの構造、住宅の設備(照明、冷暖房、断熱、IT)、地震対策等  
申し込み 藤井まで(04-71-715-1196)

**我孫子市の巨木・名木を訪ねる会(第2-1回調査報告)**  
**佐々木 佑**

11月20日(木)、冬期入りの寒さを実感する中、巨木・名木の第2-1回調査を実施した。定例日は先週12日(水)であったが雨に見舞われ中止となり、一週遅れのこの日は男性のみ9人での調査となった。今回2年目の調査は、前年の7月・8月の猛暑の中実施した調査樹木の再確認と新規巨木・名木の発見探索である。従つて、巨木・名木の所在する神社仏閣の由縁等については、簡略記載とし、調査した巨木(参考樹木も同)には連番を付す。(原則的に個人所有地の樹木については同意のない限り未調査とする)

**当日の調査行程:**

北柏駅出発 9:00→北星神社→東陽寺→旧富勢村社  
→妙蓮寺→根戸個人邸→根戸の森→久寺家個人邸  
→鷲神社下博報堂駐車場→鷲神社→宝蔵寺→食事  
夢庵 12:30→解散 13:30

【行動時間:3時間30分、歩行数:11,000歩、調査樹木本数:13本、巨木本数:7本】

**北星神社** 台田4-11

相馬氏所領時代、根戸城主が妙見菩薩を勧請奉祀したとの由緒の書かれた文政七年(1824)の古文書資料が残る神社である。明治九年(1876)に妙見社を改め北星神社とした。

巨木001、スタジイ(樹高15.9m・幹周345cm)

参考樹木001、北星神社のカヤノキ(樹高15.4m・幹周214cm)

**東陽寺** 根戸351

巨木002、イロモモ(樹高17.6m・幹周221cm)巨木判定

旧富勢村社・跡地(東陽寺管理地、通称「シヨウズカ

婆)

「シヨウズカの婆さん」とは脱衣婆(だつえば)ともいい、地獄の入口・三途の川の岸辺で亡者の衣服をはぎ取り、衣領樹(えりようじゆ)という木の上にいる懸衣翁(けんえおう)に渡す鬼婆。懸衣翁(けんえおう)は、奪衣婆と共に十王(地獄において亡者の審判を行う10尊)の配下で、奪衣婆が亡者から剥ぎ取った衣類を衣領樹の枝にかけ、その枝の垂れ具合で亡者の生前の罪の重さを計る翁といわれる。死後この奪衣婆に御目こぼしを頂こうと生前にオモテナシをする信仰が「シヨウズカ婆」信仰である。

巨木003、スタジイ(樹高16.7m・幹周378cm)

**妙蓮寺** 根戸1778

巨木004、ケヤキ(樹高16.1m・幹周313cm)

参考樹木002、妙蓮寺のムクロジ(樹高25.0m・幹周220cm)名木判定

**個人邸** (根戸569、鈴木邸)

参考樹木003、カキの木(樹高14.5m・幹周243cm)

**個人邸** (久寺家・森邸)

巨木005、ウメの木(樹高15.8m・幹周206cm)巨木判定

**個人邸** (久寺家333、日暮正昭邸)

巨木006、ケヤキ(樹高25.0m・幹周340cm)

参考樹木004、日暮さんのヒヨクヒバ(樹高13.2m・幹周270cm)名木判定

**鷲神社境内** 久寺家362

祭神は日本武尊。万延二年(1861)現台地に再建された。神社境内にシラカシ・クスノキ・スタジイ等の鎮守の杜があり東斜面にはイヌザクラがあるが巨木はない。

**博報堂駐車場**(鷲神社北崖下)

巨木007、駐車場のネムノキ(樹高14.8m・幹周334cm) 3株立122+125+087)巨木判定

**宝蔵寺** 久寺家401

真言宗豊山派・明王山宝蔵寺、本尊は延命地藏、開山開祖不詳。

元和三年(1617)創建。戦国期の久寺家城二の郭跡地で周辺には土塁の痕跡がある。

参考樹木 005、(市指定保存樹木)宝蔵寺のイチヨウ(雌)(樹高18.2・幹周25.0cm)

参考樹木 006、宝蔵寺のザクロの木(樹高5.0m)名木判定

天気予報では午後2時から雨の予報で、夢庵での昼食時までには雨に降られずに調査が出来たが、1時半過ぎからポツリポツリと予報通り雨となり、解散。

**我孫子市の巨木・名木を訪ねる会(第2回調査報告)**

佐々木侑

12月10日(水)、二十四節気で言うところの大雪が過ぎ、暦の上では北風が吹き平地にも雪が降る「つら」とされているが、今日は穏やかな一日となりそうであるが寒気は厳しい朝、我孫子駅改札口前に8時45分に集合し、総勢8名による第2回調査を実施した。

今回2年目での調査は、前年の9月・10月に実施した調査樹木の再確認と新規巨木・名木の発見探索である。従って、巨木・名木の所在する神社仏閣の由縁等については、簡略記載とし、調査した巨木(参考樹木も同)には連番を付す。(原則的に個人所有地の樹木については同意のない限り未調査とする)

当日の調査行程:

我孫子駅 8:45→八坂神社→個人駐車場→香取神社→手賀沼公園→ハケの道→船戸の森→個人邸→第四小学校→白山馬頭観音堂→興陽寺→我孫子駅南口12:30(食事処)→解散 13:30

【行動時間 3時間30分、歩行数約 10,000歩、調査樹木本数:15本、巨木本数:8本(008~015)、参考樹木:7本(007~013)】

**八坂神社** 我孫子市白山1-1

巨木 008、八坂神社のイチヨウ(樹高9.75m・幹周299cm)巨木判定

参考樹木 007、八坂神社のイロモミ(樹高13.80m・幹周167cm)

鈴木邸駐車場 我孫子市緑1:個人所有樹木

巨木 009、鈴木家のスダジイ(樹高12.00m・幹周350cm・樹勢旺盛)

他に幹周280cmのスダジイ一本あり。

**香取神社** 我孫子市緑1-6

我孫子地区の村社として尊崇され、境内地はもと手賀沼の入江を臨む台地であったが、周辺地域は都市開発や市街化の進行が激しく、鎮守の森はなく殺風景である。

大正12年にケヤキ50本を植栽したそうだが、現在には数本が残っているのみで、しかも枝を切落されたり頂上を伐採されたりしており丁寧な保存が望まれる。

境内の巨木は(ケヤキ6本、スダジイ2本、ムクノキ1本、ツバキ1本)。この神木以外のケヤキの巨木は5本あり。

巨木 010、香取神社の神木のケヤキ(樹高31.30m・幹周400cm・樹齢100年以上)

巨木 011、香取神社のムクノキ(頂上裁断、樹高12.65m・幹周366cm・樹齢90年以上)

参考樹木 008、香取神社のスダジイ(樹高12.65m・幹周283cm・大粒の椎の実)

参考樹木 009、香取神社のヤブツバキ(樹高12.60m・幹周158cm)

**手賀沼公園**

ほとんどの樹木が植樹されたもので巨木(幹周3メートル以上)のものはない。

メタセコイヤ・ラクウショウ(16本)・クスノキ・ケヤキ・ヤマモモ・マテバシイ・シラカシ・カエデ・イロモミ・ネズミモチなど種類も豊富で植物観察が楽しめる市

民の公園である。

参考樹木 010、手賀沼公園のクスノキ(樹高20.95m・幹周285cm・公園内で最大の樹木)

船戸緑地下ハケの道:個人所有樹木(根戸新田124神戸邸)

巨木 012、神戸家のクスノキ(樹高18.00m・幹周315cm・推定樹齢300年、樹勢旺盛・枝張15m)

参考樹木 011、神戸家のタブノキ(樹高17.25m・幹周232cm)

**水神宮** (根戸新田)

巨木 013、水神宮のムクノキ(樹高26.40m・幹周293cm、樹木名版あり)巨木判定

**我孫子第四小学校**

巨木 014、第四小のソメイシノ(樹高12.0m・幹周360cm、推定樹齢100年、樹勢旺盛)

**白山馬頭観音堂** (白山2-5めばえ幼稚園入口)

巨木 015、道標のエノキ(樹高16.85m・幹周270cm)幹周判断では巨木判定は無理であるが、我孫子宿街道入口の「道標の木」として巨木とする。

**興陽寺** (我孫子市白山1-16)

曹洞宗、開山は天正8年(1580)、開基は山高八右衛門(直参旗本1800石)

参考樹木 012、興陽寺のヒメヤスギ(樹高23.90m・幹周262cm)

参考樹木 013、興陽寺のイチヨウ雌(樹高21.30m・幹周281cm)

**次回予定**

1月15日(木)8時45分我孫子駅改札口前集合

我孫子駅→大光寺周辺→嘉納治五郎旧邸→三樹荘→楚人冠公園→旧楚人冠邸庭園→志賀直哉公園→寿2丁目→瀧井孝作仮寓跡→島久別荘跡→旧村川別荘跡→延寿院子の神大黒天→市役所周辺→高野山→最勝院→終了昼食→解散

文学掲示板

平成二十七年一月展示作品(文学の広場)

からし菜の種実をこぼし風わたる

川原ゆ湖畔ゆあわいの街へ

我孫子 本田 幸子

冬晴れの沼を見下ろす楚人冠

アカマツ林を風が鳴らして

松戸 松口 光利

露宿る広葉の間(あひ)に伸びたちて

今か開かむ紅(くれない)の蓮

我孫子 松下 美代

選ばれし三代夫婦の渡り初(そめ)

若妻なりし彼のひともし老ゆ

我孫子 松本 ゆき

地に墜ちし尾長の雛をいたはるに

親鳥けはしき声に迫り来

我孫子 松本 芳雄

朝もやの甍に白く鷺の影

池の金魚を窺ひ居りぬ

我孫子 美崎 大洋

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和七年新年

富士の嶺の雪むらさきに初明り

ぬかるみの水澄んである一月かな

春 峯の雪愕然としてなだれけり

残雪を掬ぶや谷の日は深き

落ちやらぬ檜の枯葉や下萌ゆる

遠ざかる八十八夜の霞かな

大河の出洲の砂原かげろへり

摘みは摘みてやがて捨てたる土筆かな

春の道遠きをこそと選びけり

大河まろく流れて春の水緩し

笛吹かず人も踊らず臙なり

小草履をぬきそろへあり磯の春

傾けて花をよけ行く日傘かな

衣がへ母が嘔み切るしつけ糸

第117回史跡文学散歩のお知らせ

「田端文士村と六義園の桜を観る」

芥川龍之介や滝井孝作など我孫子ゆかりの文人が  
住んだ町、田端を訪ねます。

上野駅や東京美術学校が開設されると田端は多くの  
文化人が集まりました。香取秀真(ほつま)や板谷波  
山、平塚雷鳥、堀辰雄、室生犀星などなど田端文学  
地図には1キロ四方の高台に数十名の作家、詩人、歌  
人が住んだとあります。大正デモクラシーを支える  
文化圏だったのでしよう。また三月末は六義園のしだ  
れ桜が満開です。是非ご参加ください。

1. 日時 三月二十九日(日) 9時、千代田線「西日暮  
里」まで切符購入の上、我孫子駅改札口内に集合。  
(小雨決行) 3時頃現地解散。

2. コース 与楽寺一文人旧宅(芥川龍之介、菊池寛、  
室生犀星など)→田端文士村記念一大龍寺(正岡  
子規、板谷波山墓所)→ポプラ坂一六義園  
講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)  
参加費 会員 無料、非会員 500円  
申し込み TEL&FAX (七二八四)二〇四七  
越岡まで(締め切り) 3月22日(日)

今後の行事予定

□ 「放談くわん」

日時 2月7日(土) 14時〜16時

会場 アビスタ第2学習室

講師 石樽 利光氏(いしぐれとしみつ)：前在スロベニア特  
命全権大使

演題 『外交官生活と異文化との遭遇』

講師の経歴と講演内容 昭和46年大学在学中に外務

省に入省、在チエスロバキア大使館勤務を皮切りに、  
国連開発計画東京事務所長を務め、報道課、国際緊  
急援助室長などを歴任。在ジッタ総領事、在スロベニア  
特命全権大使など在外勤務を経て平成25年に退官。  
パプアニューギニアとサウジアラビア(ジッタ)での公  
私に亘る生活と異文化との遭遇についてお話し頂きま  
す。

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込み TEL&FAX(七二八五)〇六七五

佐々木まで(先着35名)

当会の最近の動き(報告、予定)

散歩部会

11月30日(日)第116回史跡文学散歩

「林芙美子邸と上高田の寺町を訪ねる」

手賀沼部会

12月7日(日)手賀沼清掃 8名参加

研修部会

12月7日(日)放談くらぶ「ドイツ科学史巡礼の旅

―明治時代の日本人留学生の足跡を訪ねる―

プロジェクト開催予定

□ 手賀沼の自然と親しむ

日時 2月13日(金)

□ 関東建築探訪

日時 1月18日(日) 7時50分我孫子駅集合

□ 我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

日時 1月15日(木) 8時45分我孫子駅改札口前集合

次回役員会予定

日時 1月11日(日) 15時〜16時45分

場所 けやき10階大会議室

(入会員紹介)次の方が入会されました。

菊池玲子、工藤邦子、嶋津玲仁、井本三夫、高森 茂

高森恵子(以上6名、敬称略)

編集後記

今年の干支は乙未(きのと)ひつじ、いつび)。

「未」は動物にあてはめると「羊」になる。羊は、「祥」に通  
じ、中国の吉祥動物の一つで、群れをなすところから「家  
族の安泰を表すとされ、いつまでも「平和」に暮らすこ  
とを意味している▲「未」生まれの特徴としては「穏やか  
で人情に厚い」とされる。「羊頭狗肉」「羊の皮を被った  
狼」などにその特徴が表現されているが、身近にあまり  
羊がないので実感がない▲改めて周りの「未」生まれの  
人を探してください。「そう言えばあの人は?」(美崎)